



第七十六号

娘が生まれました

メルマガnoichi76号、今月のテーマは「娘が生まれました」。

9月20日、奥田雅楽之一にとって第一子となる、

元気な赤ちゃんが生まれました！

今月二十日、私にとって第一子となる女の子が生まれました。体重は二千七百七グラム、身長は四十八センチ、妻は本当によく頑張つて、元気な赤ちゃんを産んでくれました。今回は、いわゆる「立会い出産」を希望していましたが（これは私の希望というより妻の希望でした）ので、私は私で緊張しておりましたが、妻の苦しみと比べてたら雲泥の差ですから、高ぶるドキドキをなるべく表に出さなようにしながら、その時に備えました。先生に呼ばれ、妻の側に座り、なにか言葉を掛けようと思つたら、案外あつという間にその時が訪れ、先生が取り上げたばかりの、まだ上手く泣けない赤ちゃんを私たちの前に差し出して下さいました。なんだかとても不思議な気持ちがありました。妻はすぐには動けなかったので、赤ちゃんと握手だけして、私は赤ちゃんと別室に移動しました。産

声を聴きながら、新生児の体重、身長の計測、手慣れた手付きでシャンプーをする看護師さん。「お写真、撮らないのですか？」と私に言ってくれたので、私は何枚か写真を撮つて、廊下で気を揉んでおられた義父母に写メールを送りました。義母から直ぐ「おめでとう、よかつたですね。声が聞こえます」と返信があり、私は少し胸が熱くなりました。看護婦さんが、一緒に指の数を数えて下さいと言うので、「一、二、三、四、五」と両手両足の分、四回数えました。私は乱視なので、なんだか指が多いような気がしてハラハラしましたが、ちゃんと何れも五本指でした。一通りの処置を終えて、赤ちゃんと私は義父母と合流し、妻が後から病室に戻つて来て赤ちゃんと対面し、幸せそうな表情で赤ちゃんの頬を優しく撫でていました。元氣そうな妻の姿を見て、私は初めて安堵しました。頑張つて



くれた妻に、その場で感謝の気持ちを伝えました。妻と娘は退院後も暫く御実家でお世話になる予定で、私の所へいつ帰つて来られるかは妻の体調次第ですが、体力を十二分に温存して、万全の体調で戻つてもらえれば幸いと思つています。これから新しい生活が始まることに、希望と不安が混在していますが、娘が一人前になるその日まで、親の責任を果たして参りたい所存です。

娘の名前は、博愛の「博」に「子」を付して、「博子(ひろこ)」になりました。命名の由来は三つあります。一つは、妻の名前に「愛」が付くこともあり、博愛の言葉が示すように、ひろく平等に人を愛してほしいという願いを込め

ました。二つ目は画数で、私の本名「智之」と全く同じ画数になっております。なにしろ一生の名前ということ、私も色々本で調べたりしましたが、私の名前を親がちゃんと考えてくれたんだということが改めてよく分かり、親の考えに敬意を表して、私の名と同じ画数にしました。三つ目は、実はこのことがそもそも着想だったのじゃないかと説明したいのですが、妻の御家族は代々のクリスチャンで、クリスチャンは洗礼の際に代母(代父)という立会人が必要なのだそうです。妻の代母を引き受けて下さった方のお名前が岩瀬博子先生とおっしゃいました。岩瀬博子先生は、彼女の幼稚園の先生でした。彼女が生まれてすぐ、かのマザー・テレサに抱っこされたエピソードがあることは以前メルマガでもご紹介させて頂きましたが、マザーの講演会の中で、生後間もない彼女を抱っこしていた岩瀬先生が、泣き止まない彼女を思い切っマザーに差し出し、マザーは快く彼女を抱き締めて、彼女に頬ずりをしてくれたそうです。岩瀬先生は残念ながら十年ほど前に他界されてしまったので、私はお目に掛かることが出来なかったのですが、妻の妊娠が判ってからある日、妻が何気なく先生から貰った手紙を私に見せてくれました。そこには、「マザーの手は救いの手、だから愛美ちゃんもたくさんの人を救える人になって下さい」というようなことが書いてあって、とても素敵な方だと思いました。娘に同じ名前を付けたことは岩瀬先生には大変恐れ多いのですが、先生の想いを一生忘れることがないよう、また、娘が大きくなって先生のお手紙を読んで私と同じ豊かな気持ちになれるよう、そのような想いを込めて博子の名前を付けました。

これからは前途多難、苦労が絶えないと思いますが、親子三人で沢山の思い出を作っていきたいと思っております。あたたかくお見守り頂きますよう、心からよろしくお願い申し上げます。



Illustration: morimoe

◎あとがき◎

女の子は父親に似ることが多い。うちの娘も小さいころは「まあ、お父さんにそっくりね」といかにも残念そうに言われたものだ。「でも年齢を重ねるとまた変わるしね」なんて、フォローになつてない言葉も、成人した今となつては懐かしい思い出。その後、言葉の通り、大きくなるにしたがつて、お母さんに似て来たり、揺り戻しがあつたり、どんどん変わっていくので、奥田くんも安心してほしい(笑)。

おじいちゃんやおばあちゃんは孫が自分に似てるとうれしそうだ。それでなくても、へなんでーこんなーにかわいいのーかーよーへと演歌にもあるように、孫という生き物は無条件に可愛いものらしい。自分に似た子どもをいとおしく感じるのはきつと遺伝子の策略であるわけで、そんなのに乗るのは少し癪だけど、本能的なものだから仕方ない。

ひとつだけ心配なのはお父さんの方が必要以上にめろめろになりそうなので、おそろく、気持ち悪いくらいの子煩悩になりそうなので、やり過ぎな時はみなさんサトシをさとしてあげてください。

グラフィックデザイナー (http://www.1938.jp) みやはらたかお

